

刊夕 日十三月一

常磐毎日新聞

定額一紙五銭 一月五十五銭 三月一五〇銭 半年二八〇銭 一年五〇〇銭
電話 五五五
日曜 祭日の翌日 休刊
発行所 常磐毎日新聞社
印刷所 常磐毎日新聞社

牢獄と蜘蛛と こうろぎ 十

白土 五郎

こほろぎ公とくも公の死
秋風吹くと共に左端の蛛
公は行先不明になり右側の
新夢の勇猛な蛛公は雑役に
たゞさ落されたり、その儘
二度と姿を見せなかつた。
室の中に居た数匹の蛛公
は蠅や蚊の姿が見えなくな
り、寒さは加つて来たので
綱を張る元氣もなくなりし
ほれかへつて破れた網にち
こまつてゐる、ある寒い
朝であつた一匹の蛛公が俺
の前に下つて来た。狸々蛛
蜘蛛と云ふのか紅い蛛公
だ、それが狂ひのやうには
ね廻るで俺は糸屑をかぶせ
てやると、しばらくはジッ
としてゐるがすぐに狂ひ廻
る、便所の方に行つたり夜
具の方に行つたり、臺所に
行つたり、六疊の室をグル
グル廻る、それも朝から晩
までだ。俺の寝る時も止め
ないから糸屑を巢を作つて
やつた、気がかりなので翌
朝早く起きて見ると巢から
出で便所の處に手足をすく
めて狂ひ死にしてゐた。
二三日過ぎると又一匹の
蛛公はドアの所に下つて
来た、これも汚れの所に狂
ひ廻つてゐたが俺はどうす

る業もなくたゞ見とゐる外
はない、これも翌朝には狂
ひ死んだ。
次には虎くもとも云ふ
のか洞の長い虎のやうにシ
マのある美しくも、俺は
これが下つて来たから俺は
網のところを投げてやつた
するとその網を渡つて行つ
たが、そこには一匹の狸々

【朝】トーストチーズ コー
ヒー 玉子 果物
【書】金平牛蒡 小付 黒豆
【晚】炊込御飯（さつま芋
あんかけ 芝えびそば
ろ）

くもが居て突撃したと思
ふ間に虎と狸々の闘争が展
開された。しばらくして哀
れ鹿くもはクルクルに粘網
に捲きつけられて喰はれて
しまつた。俺は又罪なこと
をした。

電燈から北の壁に網をか
けて一匹の大きな虎くもが
居た、これは最近まで一と
ころに動かずに頑張つて居
るから變だと思つて箒で落
して見るとじからびて死ん
でゐる。とらくもを喰つた
狸々くももそれで僅かの餘命
を保たさうで死んで行つた
今や室中には一匹のくも
も居らぬ、掃除する時々

開えぬ、運動場のドアの
隅に小さいくもが一匹居
る以外虫の姿はない、その
くもに手をやるとスウーと
下るがすぐ上る氣力は失せ
てゐる。
牢獄の冬の庭は淋しい、
哀れだ――

文藝募集

お年始に
鯉節
お年始に
お年始に

鯉節



志賀盛榮商
平出丁目二（電一三）

呼吸疾患救済の王

陸海軍御用
帝國大學醫學部御用
官公立醫學專門學校御用

吸入用酸素

體溫計 (メートル)
御用命次第迅速に御届け致します
平町古鍛冶町一〇縣社ノ下
電話 四四四番
振替口座東京三〇〇番

阿康藥局

處方箋調劑所

耳鼻咽喉科専門

鈴木醫院

醫學士 鈴木 正男
平町田町（電話五八番）
藤田女學校前
自炊のお需めに應ず
入院の便あり

中野齒科醫院

一齒科一般 保存科補綴科 繼續架
工科 齒列矯正科 小兒齒科 齒槽膿漏科
一口腔外科 一レントゲン科

院長 日本齒科 中野 惠次
醫學士 日本齒科 川 誠
醫學士 西川 誠
平町田町（松月堂向）
電話 五〇九番

和發家具店

石炭
コークス
豆炭

阿部石炭店
電話三十七番

尼子自動車商會

皆様の足？
尼子タクシーへも豆タクが入
りました
御立關から立關へ 迅速簡便
是非御利用を

市内 三〇錢
市外 四割引

宮行

流線型セダン
大型貸切バス

宮行―直通は二丁目尼子自動車部よ
り發車いたします
平町二丁目
電話 六四〇番

違反防止に主力

従来の檢舉第一主義の方針を變更

平署は總選舉に際して従来の檢舉第一主義の方針を變更、違反防止に乗り出すことになり之が徹底を期する爲違反防止座談會等を開き又映畫芝居興行等の幕合を利用して防犯講演、その他の方法で主旨の貫徹を期することになった

簡保加入

平局管内口數

平郵便局簡易保險加入數は現在平町に一萬五千口、附近町村に八千口あり保險金二百八十八萬六千圓に達して居るが平局では今回一月現在で保險年金動獎カードを作つたので近く局員が五班に分れ全管内を戸別訪問して加入者の詳密調査を行ふと

簡保加入慰安

平郵便局は簡易保險加入者慰安の爲め目下聚樂館で開演中の歌舞伎連鎖劇の割引券を加入者に配布したが来月上旬は平館に上映される日活特作映畫大菩薩峠の半額券を配ると

信用組合總會

高久平窪兩信用組合は明廿一日午前十時からいづれも小學校に開かれる、尙小名濱で

方針を變更

は二月一日、渡邊では六日それ／＼開會の筈

買上代金

一時立替

副業協會幹旋 石城郡農會並に縣副業協會幹旋による陸海軍へ物品納入(主として養皮外)は最近の納入成績順に上り地方農山村を潤してゐるが代金受取りに複雑な手續を要するため現品發送後一ヶ月以

舊正の廻禮

選舉談御用心

△恰も舊正月で郡下各地方はこれから廻禮が盛んになる、折あしく選舉にぶつかつて、迷惑する者も少なくないであらう選舉の折柄であるから選舉の話の出ない譯にも行くまい、ソレを運動と見られることになる

幹事を改選

大野村信用組合は昨廿九日總會を開き役員改選の結果組合長木村正男氏、理事吉田森治氏外九名再選、幹事の中野耕平氏が辭職して西三惠一氏に決定した

平商紅白試合

平商業學校は今廿日午前十時より同校武道場で盛大に寒稽古納會紅白試合を催した

郡農評議員會

昨報石城郡農會の定期總會は二月六日行はれるがそれに先き立ち五日平町團体事務所評議員會を開く

平町入除隊兵

平町高月鎮座縣社飯野八幡神社々司飯野盛男氏は豫て短期現役兵として仙臺輜重兵第二大隊に入隊中であつたが此の程満期除隊となり廿一日午後零時四十三分着上り列車で歸平する

除隊兵

平町立町金成金雄君は廿一日午後八時二十分平驛發下り列車で仙臺輜重兵第二大隊に入營の途につく

新四礦區

今度は磐炭が 石炭試掘許可 軍需インフレの波に躍る石炭試掘願は復又今廿日附左記礦區が許可された

植田町錦村地下九十六萬二千坪、玉川泉雨村地下九十萬六千六百坪、渡邊磐崎兩村地下一萬坪、泉渡邊兩村地下八十七萬七千七百坪、磐城炭礦出願 廣野、久の濱、大久地下八十八萬六千六百六十坪 入山採炭出願、川部村地下三十七萬四千坪、小名濱町小野清氏出願

シネマ週報

△平館 日活時代劇サウ
△平館 日活時代劇サウ
△平館 日活時代劇サウ
△平館 日活時代劇サウ
△平館 日活時代劇サウ
△平館 日活時代劇サウ
△平館 日活時代劇サウ
△平館 日活時代劇サウ
△平館 日活時代劇サウ
△平館 日活時代劇サウ

平町人事

回出生

△月見町二三當時東京市葛飾區柴又町一ノ六六山崎六郎氏二女景子さん
△新川町二七小野潔氏二女富子さん
△三倉町五人當時東京市小石川區上富町二三青木吉壽氏(四五)

回死

△三倉町五人當時東京市小石川區上富町二三青木吉壽氏(四五)

看護婦急派

求めに應じます

平町南町 平看護婦會 電話三〇七

吸入用酸素純度 99%

モノサシ 体温計
マ ス
ハカリ 寒暖計
器量計
秤ノ取緒・垂糸・修繕致シマス

關内藥局

寫真材料一式販賣致シマス 電話四〇番

貴方の御家庭に

お手不足は御座いませんか
本會を御利用下さい
直に家政婦を派出します

親切 料金は極め低廉で
御病人の付添 お留守 居番
炊事や雜用 年寄やお子さんの付添

派出多忙に付會員至急募集

平町紺屋町二(電話二二番)

上原家政婦會

會主 産婆 上原通子

石炭 平驛前
コークス 阿部石炭店
豆炭 電話三十七番

鯛が不漁で

御祝儀席脅さる

相場が滅ツ法に高い

豊間小濱海岸の鯛漁は漁期に入つても一尾もとれず漁業者は悲鳴をあげて居るが本年は例年より水温が四五度低いので鯛は暖流を追つて千葉縣沖合に南下したらしい婚禮季節を迎へての不漁四十掛平均の相場は一躍八十掛高騰し御祝儀席は大恐慌である

五千円で

タンク新設

江名信用組合は昨年八月より工費五千円で収容力二百噸の重油タンクを新設すべく商工省に國庫補助を申請中であつたが昨廿九日附で二千六百十二圓の補助を支給されたので近く着工し三月末迄に竣工すると

寂れた遊廓から

地代値下の陳情

華やかな繁榮も今は昔 残るは三軒のみ

平町遊廓遊廓は年極度の財界不況影響を受けて全く衰微状態 殊更昨年二月内、一方から引續く不況、疲弊困窮、結果廢業を三業者も昔時、面影を來たし且つ、外營、業不振に陥つ、結局前者の轍、はらぬ現状に立ち至つた、陳情を續け來つ、軽減方を此程又々提、たが現在

小名濱町 消防出初

併て組員彰賞

小名濱町消防組の恒例出初式は今三十日午前八時諏訪神社前に於て選舉肅正と併せ無火災を祈願し直ちに市中梯子乗りを舉行終つて退職組員宮野靜翁、小野三郎、齊藤義定の三氏に記念品と共に感謝狀を贈呈し外左記優良組員を各表彰し

預り品を

横領の疑ひ

平町立町木賃宿大越屋大越寅夫(假名)は昨年四月中旬家に二回程投宿した當時双葉郡龍田村東屋旅館止宿埼玉縣大里郡藤沼村生れ田邊房徳(三)から革製オートバイセル單衣物各一枚を預つてゐたが最近房徳が品物を預けて置いた御禮にと酒一升を買つて來て二人で呑み交した末前記預品を請求した處大越は「そんな物は預つた筈はない」とか「昨年秋の洪水で水浸しになり屑屋に呉れてやつた」と言を左右にして返却せぬため田邊は大越を依託品横領、半署に告訴した

勿ね飛し

通行人負傷

湯本町矢内自動車部運轉手矢内正二(三)は昨廿九日午後五時四十分頃乗合を運轉して内郷村大字御座字久世原地内國道を疾走中前方を通行した栃木縣鹽谷郡高根澤村字箱崎生れ佐々木みづ(五)を勿ね飛ばし全治二週間の負傷させた

御歌銘仙贈與

平町白銀町四〇白土トモ(五)外縣勿來町山名ツル(五)は來る二月一日(一日限り)午後四時



明日の tomorrow

今夜は晴明日も同様

今晩の部

後六、〇〇 子供の時間
童謡と唱歌 岩手縣一關
小學宮城縣玉浦小學兒童
後六、二五 青年の時間
「徳器を成就しと宣給へる聖訓について」葛西千秋
後七、三〇 講演「日本人縣秩父町秩父織物工業組合が長くも秩父宮妃殿下の老人を慈しまれた御歌を謹寫した秩父銘仙地色紙を全國の高齡者に贈與するに當つて廿八日夫々送達された御歌は宮中御歌所千葉胤明氏が謹寫したものであ

親子六人路頭に

迷つて救濟方を願出

赤井村福島炭礦元坑夫東京市板橋區練馬南町四丁目六一〇一熊谷寛(七)は約二ヶ月程前妻まつい(七)外子供四人を連れて青森へ出稼ぎしたが思ふ様な仕事もなし兄の居る東京へ歸途に就いた處親子六人で毎日の食費にも事欠き進退はまつて廿七日郡山市驛前大町交番所へ救助方を願ひ出た旨平署に照會があつた

選抜入賞

選肅の清書募集に

選舉肅正中央聯盟の委囑により縣が過般縣下各中等學校及び小學校より募集した選舉肅正に關する清書は今回審査を了したが最優秀作品廿点の内郡内左記兒童が入選し中央聯盟で全國の作品と筆蹟を競ふこととなつた
平第二校五年千葉伶子

明日の部

前七、〇一 現代語講座
「新らしき話法の展」市川寛
前七、三〇 朝の修養「近思錄」高瀬武次郎
前八、〇〇 婦人講座「手紙の書き方」木枝増一
後八、〇〇 フトキー中繼「一九三六年の大放送」大阪ビルバラマウント試寫室より
後二、〇〇 婦人の時間「二月中の婦人界」山田わか
後二、四〇 小學尋六唱歌
飯野校三年常陸和子 豊開校二年鈴木カネ
平職業紹介所報告
回 人を求める方
△女中 四十才迄 月給五圓
△女中 卅才迄 月給五圓
△トラツク運轉手 月給四圓
△小店員 卅才迄 月給五圓
△配達 十七才迄 月給四圓
△飲食店雜役 廿才迄 月給五圓
△女工 廿才迄 月給七圓
△船人夫 卅才迄 月給五圓
△表具見習 廿才迄 年給三〇、〇〇圓位
△染洗見習 十八才迄 給料小遣仕着
回 職を求める方
△精米店員 廿才迄 月給五圓
△表具見習 廿才迄 年給三〇、〇〇圓位
△染洗見習 十八才迄 給料小遣仕着
△鐘紡女工 十四才 尋卒
△人絹女工 廿五才 產婆學校卒
△人絹職工 卅才 高卒
△土工夫 廿四才 高卒
△漁業雜役 五十四才 尋卒
△トラツク助手 廿四才 尋卒
△集金人 四十六才 高卒

是非!

御融通には御用命下さい
萬事便利な御相談に應じます

三井質店

平。四電六〇六番



船頭の話

（禁上 映上）
（演舞 戯）
悟道軒圓玉（作）
丸尾至陽（書）

三四 懐のピストル
秋とはいへどもまだ七月暑さも去らずそれに夜も早く更ける、お花は衣類を着かえながこの時ヒューケンからかたみとしてゆづられたピストルをふところ忍ばした、士井定次郎は向島の秋葉神社のかたはらに潜伏する三島三郎を捕縛すれば大した手柄、そこでおはなを案内として濱町河岸をあつにして向島を指して行く

定「向島までおひろいで出かけるのは大儀だ、舟で行くことにしやう」
とこれから柳橋へ来て伊豆屋といふ舟宿から屋根舟を一艘仕立て、これに來つて隅田川をさかのぼる、やがて舟は圍の堤の下まで來た



定「船頭、そこへ着けてくれ」
船「足場が悪うございませから、御氣をつけなさいませし」
定「心得た、成程こゝは足場が悪いな」
ヒラリと舟から飛び上り定「お花、それこれへつかまつて上れ」
定次郎が出した脇差

イ船頭 舟賃 濟んであるんだ、これはお前の酒代だ、船「有難うございませ、氣をつけておいでなさいませし」
船頭は舟を戻す、定次郎はおはたと連れ立つて土手に上つた、川を越えた左今

戸に橋場、待乳山がうつすりと見えて聖天の森からチラ／＼灯がさす、右に三圍神社、ガア／＼／＼と田甫で蛙が啼いてゐる
定「減法さむしいな」
はな「何だか氣味が悪くなつて來たよ」
定「こんな人通りのねえところには追刺が出たところ稼業にはなるめえ、時にはおはな、むかふへ行つたら何とかうめこといつて三島を呼び出してくれ、またその時は刀や脇差を取り上げ

う助けてくださいよ」
定「またしてもそんなことを言ふ、お前とは兄妹の縁が切れてゐるんだ、して見れば三島と俺は何の縁故もなからう、おれが彼奴を縛り上げて町奉行所に突き出せば出世が出来るんだ目の前に出世の綱がありながらそいつを見のがすことは出来なからう」
はな「それでは何うしても助けてくれることは出来ないの」
定「くだいことをいふな、俺は徳川家の直參だ、徳川家の害になる奴はたとへ蟲でも助けておくことは出来なえ」
はな「それはお前さんのいふこともつともだが、三島さんに繩をかけては女の道が立つまいと思ふが」
といつたお花はふところを手に入れてピストルをし

かり握つた、三圍もあとにして白晝近く來たがこで堤をおりる、三島の潜伏してゐるところは秋葉神社のかたはら松平十郎の妾宅、今土手をおりやうとした時に定次郎は足をあげてボンとお花の内股を蹴つた、おりやうとうしたところを蹴られてズル／＼と体が延びる同時に足が流れてパツタリ倒れた、この時定次郎はお花の腕をピツタリ押へ定「お花、ふところを忍ばしてゐるものをいせ、とんでもねえ奴だ、エ出さねえか」
ふところへ手を差し入れる、お花は倒れた時にピストルを押へてゐた手を放した、定次郎はピストルをズル／＼引き出す、アレといつたお花ははその手に歯を立てた、これで定次郎がバリとピストルを落した。

吉田眼科醫院

平紺屋町 電話六八番
醫學士 吉田久雄

平厩館

レストラント
電話624

木村病院

平町新川町十九
病室完備 入院隨意
電話一六四番

産婦人科 院長 木村寅次郎
外科 醫學博士 内木宗八
藥局 藥劑士 大岩俊雄

喜多流 謠曲と仕舞の

稽古をお奨め致します
平町田町六九
喜多流 仕舞 白土會
電話一二七番

久松屋豆腐店

磐城セメント會社特約店
磐城平町五丁目 電話九・九九番
□良品廉賣に勝る商略なし
□確實敏捷は久の生命なり

かまぼこ 製造

お惣菜用 さつま揚 吉原揚
平町一丁目
電話一四一番